

二〇一七年五月一六日(参加者一二名)

椋鳥らかくれんぼせる苜蓿

うつぎ

バラの園犬づれ子づれ車椅子

明日香

園丁ら横一列に草を引く

うつぎ

草笛を鳴らし先導吟行子

明日香

川風に高舞ひもして蝶遊ぶ

うつぎ

薔薇百花繚乱の園たもとほる

はく子

草笛を吹き休憩の合図とす

うつぎ

野に遊ぶ名草醜草隔てなく

はく子

水難碑訪へば裏から雨蛙

うつぎ

一斉に駆け出す風の竹落葉

有香

水飲場はとが占領園薄暑

せいじ

天降るごと浴びる新緑鳥語また

有香

バス停によき影落とす楠若葉

せいじ

喬木のグリーンシャワーや風薫る

わかば

疲れ見ゆ昨日の薔薇と今日の薔薇

せいじ

緑陰におしゃべりしつつバスを待つ

わかば

たもとほる猪名堤草芳しき

菜々

ひたすらに薔薇に顔寄す車椅子

ぼんこ

若葉していよよ明るき楡の天

菜々

草の秀をのぼりつめたる天道虫

ぼんこ

膝ついて侍者のごとくに薔薇手入れ

菜々

定例会会みのる選

野の草をあれこれ摘みつおしゃべりす

満天

二〇一七年五月一六日(参加者一二名)

慰霊碑へ千手を翳す楠若葉

満天

車椅子みんな笑顔や薔薇の園

満天